



2018年4月1日発行

図書館用語集

【あ】

■ISBN(あいえすびーえぬ)International Standard Book Number

「国際標準図書番号」のことで、図書を識別するために付与されるID番号のことを指します。OPACやインターネットなどで本を探す時に使うと便利です。

■ISSN(あいえすえすえぬ)International Standard Serial Number

「国際標準逐次刊行物番号」のことで、定期刊行物、新聞や雑誌などの逐次刊行物を識別するために付与されるID番号のことを指します。OPACやインターネットなどで雑誌を探す時に使うと便利です。

■ILL(あいえるえる)Interlibrary-Loan

「図書館間相互貸借・文献複写」のことで、東洋大学で所蔵していない資料を他の図書館から借りたり、論文の複写を取り寄せたりするサービス(有料)のこと。OPACから申込みできますが、初回のみカウンターで手続きが必要です。

■アクティブ・ラーニング(あくていぶ・らーにんぐ) active learning

学習者の能動的な参加を取り入れた教授・学習法の総称。体験学習、調査学習等の他、図書館でのグループ・ディスカッション、ディベートなども含まれます。

■NDC(えぬでいーしー)Nippon Decimal Classification

「日本十進分類法」のことで、日本で使われている図書を分類するための方法です。分類には0～9の数字が用いられており(0：総記、1：哲学・・・)、請求記号と関連があります。

■OPAC(おーぱっく)Online Public Access Catalog

図書館の所蔵資料を検索するためのシステムのこと。資料検索以外にも図書の予約・取り寄せ、貸出状況確認、貸出延長などもできます。

■オンラインデータベース(おんらいんでーたべーす)

東洋大学附属図書館が契約している新聞・雑誌記事、百科事典、学術論文、法令・判例などさまざまな情報を検索するためのデータベースのこと。学内のネットワークに接続したPCからアクセスできます。

【か】

■解題(かいだい)

特定の著作に対して、その内容、対象領域、成立事情、意義、他の著作との関連などを説明したもの。著者の紹介や著作の内容、編集方針に対する評価が加わることもあります。

■機関リポジトリ(きかんりぼじとり)

大学や研究機関が主体となって所属研究者の知的生産物を電子的に収集、蓄積、提供するシステム・サービスのこと。研究成果の情報発信、オープンアクセス(学術研究成果を誰もが無料でオンラインで利用できるようにすること)を担っており、本学も「東洋大学学術情報リポジトリ」を展開しています。

■コンソーシアム・協定校(こんそーしあむ・きょうていこう)

東洋大学附属図書館は他大学図書館と相互協力の協定を結び、コンソーシアムを形成しています。本学の学生・教職員は、コンソーシアムに加盟している他大学図書館を東洋大学の学生証・身分証明書で利用できます。(例.山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム。加盟大学：青山学院・学習院・國學院・法政・明治・明治学院・立教・東洋)

【さ】

■索引(さくいん)

特定部分に容易にアクセスできるよう、タイトル、人名などの見出し語を規則的に配列し、情報の所在を記載したリストです。

■参考図書(さんこうとしょ)

辞書・百科事典・年鑑・統計・白書など、調べものをするとき利用する資料のことです。利用は館内のみとなります。また、有用な文献として教員がシラバスで提示している資料を「参考指定図書」と題して別置している館もあります。(こちらは貸出可)

■自動貸出返却装置(じどうかしだしへんきやくそうち)Automatic Book Circulation machine (ABC)

カウンターで手続きしなくても、この装置を使えば、セルフサービスで借りたい図書の貸出・延長・返却の手続きができます(白山図書館は貸出・延長のみ)。未製本雑誌・視聴覚資料は、カウンターで手続きをお願いします。

■紹介状(しょうかいじょう)

東洋大学附属図書館が発行している書類。「閲覧願」とも言います。東洋大学附属図書館に所蔵がなく、他大学・他機関の図書館に所蔵がある場合、その図書館に出向いて閲覧する際に持参します。申請はカウンターにて受付けております。

■書誌(しょし)

個々の資料を識別できるように書名、著者名、出版社などの事項を一定の方式にしたがって記述、配列したリスト。

■資料番号(しりょうばんごう)

東洋大学附属図書館資料を特定する本学特有のID番号(バーコード)。OPACで検索したときに表示されます。

■請求記号(せいきゅうきごう)

図書館で資料が並べられている位置を示す記号。請求記号のラベルは資料の背表紙下部に貼られていますので、このラベルの記号を頼りに資料を探します。図書館の資料は日本十進分類法(NDC)に基づき分類された番号・記号の順番に並べられています。

■製本雑誌(せいほんざっし)

雑誌の破損、散逸などを防止するために、数冊をまとめて1冊の本のように製本した雑誌のこと。ちなみに新刊雑誌など製本されていない雑誌のことを「未製本雑誌」と言います。

■叢書(そうしょ)

同じ種類や分野の事柄を編集・刊行した一連の書物のこと。シリーズ。

【た】

■逐次刊行物(ちくじかんこうぶつ)

終期が予定されてなく継続的に発行される出版物。雑誌、紀要、新聞、年鑑、統計書など。

■電子ジャーナル(でんしじゃーなる)

雑誌の電子メディア版。オンラインジャーナルのこと。紙版と電子版の両方で出版されるものもありますが、電子版のみ刊行されるものも増えています。東洋大学が契約しているインターネット環境があれば、学外・学内どちらからでも、PCからアクセス可能です。(一部学内のみ。利用制限あり)

■電子ブック(でんしぶっく)

書籍を電子ファイル化したものでパソコンにデータをダウンロードして画面で読むことができます。

【な】

■NACSIS(なくしず)National Center for Science Information Systems

国立情報学研究所が提供している総合目録データベース(NACSIS-CAT)。

■年鑑(ねんかん)

ある事柄に関する1年間の事件、統計などを載せ、情報を提供する年1回の逐次刊行物。

【は】

■配架(はいか)

新規に受け入れしたり、利用された資料を書架の所定の位置に配置すること。あるいは排架(はいか)とも書きます。

■白書(はくしょ)

政府が発表する行政、経済、国民生活などの各分野に関する公式報告書。近年では電子化による公開が進んでおり、国のその分野の現状、背策の動向、今後の見通しなどが記述されています。名称は、英国で白い紙表紙で刊行されたことに由来します。

■ブラウジング(ぶらうじんぐ)

偶然の発見を期待して漫然と情報を探ること。図書のタイトルを眺めながら資料を探したり、気の向くままに資料を手に取り、拾い読みする行為などを含みます。

【ら】

■ラーニング・コモンズ(らーにんぐ・こもんず)

「学習するための共有の場」です。インターネット環境と従来の図書館資料を有効に使い、学生同士がともに考え、ディスカッションし、情報発信する場です。このエリアでは、学習会話が可能です。

■レファレンス(れふぁれんす)

探している文献が見つからない、どうやって調べていいかわからないなど困ったときに、図書館のスタッフが相談にのってくれるサービスのこと。レファレンスカウンターにご相談ください。